

コラム 相談室の窓から

平成29年8月号

夏休みだからこそその豊かな体験が、子供の心身の成長には不可欠です。たくさん楽しみましょう。でも8月の終わりになるとなんとなく気が重くなる子もいるでしょう。学校に通う。…それは当たり前のことなのですが、実は大変な日々の連続でもあります。夏休みにご家族でこの映画をご覧になってみませんか？

「世界の果ての通学路」

2013年フランスで公開されたドキュメンタリー作品です。その後世界中で公開され、ロカルノ国際映画祭でも絶賛されました。

「あなたは信じられますか。毎日往復30kmの通学路を、たった4時間で駆け抜ける兄妹がいることを。見渡す限り人のいないパタゴニア平原を、馬に乗って通学する兄妹がいることを。」（公式ホームページより転載）

「学校に通う。」ということの意味とすばらしさを味わうことができる映画です。

我が子が勉強についていけなくなったら？

小学校高学年のA君は、勉強がほとんど理解できず、授業に参加できていません。特に算数は、足し算や引き算は2ケタくらいまでは計算できますが時間がかかります。しかも、文章題になると手をつけることさえしません。授業参観に行っても手遊びをしたり私語をしたりしています。作文は大嫌いです。整理整頓が下手で、しばしば忘れ物をします。当然先生から注意されることも多いです。でも、本人は学校大好きで毎日元気に通っていき、友達もいます。



このように、一見集団に適応しているお子さんの場合、親としては「学校では友達もたくさんいて問題ない。」ととらえたいくなります。ところが、実際には学級に「A君のお世話係」的存在がいたり、宿題の量を減らすなど配慮されていたりして、学校生活に順応できているのです。こういう状況を今後もずっと続けられるわけではありません。

お子さんにとって最も大切なことは何か？それは、自立できる力を育てることです。

○学校（校長や特別支援教育コーディネーター）とよく相談しましょう

特別支援教育コーディネーターという先生が校内にいらっしゃるのをご存じですか？

コーディネーターの役割は、主に、(1)校内の教員の相談窓口、(2)校内外の関係者との連絡・調整、(3)地域の関係機関とのネットワーク作り、(4)保護者の相談窓口、(5)教育的な支援 等です。

お子さんの普段の状況をよく分かっているのは保護者や担任ですが、様々な事例や関連機関との連携など、違う視点から相談に乗ってもらうのもお子さんにとって大切です。また必要に応じて、保護者の方と一緒に個別の教育支援計画・指導計画を作成し、長期的計画的な支援の在り方を検討していくこともできます。

○就学相談をお願いしてみよう

上述のとおり、校長先生や特別支援教育コーディネーターに相談した結果、「就学相談票を書いて市内就学相談委員会にかけてみませんか？」と言われる場合があるでしょう。

親としては、我が子のことを「障がいがある」とか「特別支援学級のほうが適している」とか言われたりするのではないかと不安になってしまうでしょう。

でも、それはお子さんを特別視しているのでは決してありません。「お子さんが将来自立していくためには何を身につければよいのか。」と一緒に考えていくためです。

就学相談は概ね次のような手順で行われます。

校内の就学相談員会→保護者からの就学相談票→市教委教育相談センター→市内就学相談員会（学校での行動観察を経る）→市教委教育相談センター→校長→保護者

通常学級で頑張っていくのか、その子に適した別な道を探るのか。それを判断するのは、結局親にしかできないことです。でも様々な角度から検討してみることは、お子さんにとって、とても大切な機会です。

なお、現在新座市では、特別支援学級が次の各校に設置されています。

- ・全中学校（第三中学校には発達障がい生徒を対象とした通級指導教室もあります。）
- ・西堀小学校 八石小学校（八石小学校には言語難聴障がい児童を対象とした通級指導教室もあります。） 野火止小学校 野寺小学校 池田小学校 新堀小学校 東野小学校 新開小学校 新座小学校（新座小学校には発達障がい児童を対象とした通級指導教室もあります。）